

## 市響ファミリーコンサートへようこそ！

今日はクリスマス・イヴ、市響が皆さんにお届けするプレゼントは、それぞれが個性的な名曲ぞろいのプログラムです。

前半の2曲は、オーストリアのウィーンで活躍した2人の作曲家の作品、後半のプログラムはハンガリーの音楽をお届けいたします。

### J.シュトラウスII / 喜歌劇「こうもり」序曲

ウィーンで活躍しワルツ王と呼ばれたJ.シュトラウスII世の代表的なオペラのオープニング曲です。

主人公アイゼンシュタインは大晦日の晩、大金持ちのパーティーに招待され、そこでハンガリーの貴婦人に出会い一目ぼれします。秘蔵のアクセサリ時計を餌に口説きにかかりますが、実は彼女は自分の奥さんの扮装。浮気をとっちめられるというストーリーで、この騒動を仕掛けたファルケ博士のあだ名がこのオペラのタイトル名「こうもり」の由来です。

曲はオペラ中のウィーン情緒あふれる名旋律を次々とつなげて作られています。特に印象に残るのは、中ほどにでてくるワルツで、このオペラの中でも、豪華なパーティーでワルツが踊られるシーンで使われています。シャンパンの泡立ち、乾杯グラスの鈴のような響き、セクシーなドレス、シャンデリアの輝き、ダンスの音楽とステップ、香水、そして恋の駆け引き、それらがあふれるイメージを想像しながらお聴き下さい。

### モーツァルト / 交響曲第25番 ト短調

映画「アマデウス」で一躍モーツァルトの代表曲となったこの曲も、以前は「小ト短調交響曲」と呼ばれ、同じト短調の有名な40番 K.550と対でしか扱われなかった通好みの曲でした。モーツァルトの40曲以上ある交響曲の中、短調で書かれた交響曲はこの2曲だけです。それはおそらく当時の交響曲がコンサートのオープニングを華やかに飾る役割があったからでしょう。

この曲の特徴として、当時には珍しくホルンが4本使われていることがあります。これはオーケストラのサウンドを豊かにするだけでなく、ホルンの音程(=管の長さ)の異なるホルンを2本ずつ組み合わせ、当時のホルンでは出すことの出来なかった音を、2組がお互いを補いながらメロディを演奏するように書かれています。市響ホルンのチームワークもお聞きください。

**第1楽章：**アレグロ・コン・プリオ(軽快に生き生きと)は「モーツァルトの痛々しさ」が感じられる、17歳のときの曲とは思えない音楽です。

**第2楽章：**アンダンテではヴァイオリンとバスーンが短いフレーズを対話しあう音楽で、「モーツァルト時代のアンダン

テは決して遅くなかった」とおっしゃる早川先生のテンポで私が発見したものは若々しいモーツァルトの姿です。

**第3楽章：**先の第2楽章とは対照的に、エネルギーあふれるメヌエットです。中間部には、当時の宮廷舞踊を思わせる、管楽器によるトリオが挟まれます。

**第4楽章：**アレグロは神秘的で、後ろから何かが迫ってくる感じを私はイメージしていますが、皆さんはどうでしょうか？アンケートでもご意見をお聞かせ下さい。

材にした「コダーイ・システム」と呼ばれる音楽教育にも力を入れたりしました。ハンガリーにナチス・ドイツが侵攻した時、バルトークはアメリカに亡命、亡くなるまで帰国することはありませんでしたが、コダーイは戦争中もハンガリーの地を離れることなく、ソビエト支配のつらい時代もその穏健で親しみやすい人柄と音楽で、「すべての国民に音楽を開放した人物」と人々に尊敬されました。

彼の代表作の1つ組曲「ハーリ・ヤーノシュ」は初演から好評だった同名のオペラを抜粋したもので、組曲にすることを勧めたのはバルトークだったそうです。ハーリ・ヤーノシュとは人のハンガリーの有名な伝説上の人の名前で、「ほら吹きハーリ」とも呼ばれています。

この組曲は下記の6曲から出来ています。

**第1曲** 前奏曲～おとぎ話は始まる

**第2曲** ウィーンの音楽時計

**第3曲** うた

**第4曲** 戦争とナポレオンの敗北

**第5曲** 間奏曲

**第6曲** 皇帝と廷臣たちの入場

今回はそれにナレーションをつけ、音楽物語としてお届けいたします。みなさんも曲名は聞いたことがなくても、テレビ等で耳にしたことがある曲だと思います。どうぞ、ナレーションでストーリーを追いながら、メロディも、オーケストラの華やかなサウンドも併せてお楽しみください。

## コダーイ / 音楽物語「ハーリ・ヤーノシュ」

コダーイは20世紀に活躍したハンガリーの有名な作曲家です。同時代の作曲家で親友のバルトーク共にハンガリーの民謡を収集し、それを自分の曲に活かしたり、それを題